

進め方

はじめの6分は個人で、個人シートに気になる記述と判定を書き出します。残り18分はグループで、持ち寄った内容をこのシートに集約してください。1行=1つの記述。全部でなくてよいので、議論になった記述を優先。

判定の凡例

◎ データが記述を支持している / Δ データと乖離がある(書いてあることと実態が違う) / ? 検証不能(そもそも測っていない・データがない)

ノルマ

「?(検証不能)」を最低1つ見つけること。「測っていないこと」の発見は、乖離の発見と同じくらい重要な成果です。

#	検証する記述(ポリシー・求める学生像から転記)	判定 ◎ / Δ / ?	根拠(ダッシュボードのパネル番号と数値)	気づき・議論メモ
1			例: ◎で年内比率54%、⑦で退学率差なし	
2				
3				
4				
5				

IR室に追加で依頼したいデータ 今日のダッシュボードに「なかった」せいで検証できなかったもの。次年度のアセスメント計画の種になります。

STEP 1

起点を選ぶ(主たるものに◎、関連するものに○)

☐ 入試(選抜方法・区分設計)

☐ オープンキャンパス(入学前の接点)

☐ 入学前教育(合格～入学までの学び)

STEP 2

対応する課題

ワーク1の検証結果から、この打ち手で解決したい課題を1つ選んで書く(＃番号と要約)

STEP 3

打ち手の内容

誰に・何を・いつやるか。具体的に(例:「指定校推薦の出願要件に基礎学力型テストを追加」「OC体験プログラムを出願前推奨に」)

STEP 4

期待する変化

打ち手が効いたら、ダッシュボードのどの数値が・いつまでに・どう動くはずか

STEP 5

効果検証の方法 = 新しいアセスメント指標

何のデータを・誰が・いつ集めて確認するか。ここまで書いて打ち手は完成(アセスメントポリシー改訂の材料になる)

STEP 6

副作用・リスク

志願者減、高校との関係、現場の負担など。「その副作用も何のデータで監視するか」まで書ければ上級

STEP 7

発表メモ(90秒)

課題 → 打ち手 → それを何で測るか、の順で一言ずつ